

飼料作物の害虫(Ⅰ)

デントコーン・スイートコーンの害虫

北海道農試畑作部 気賀沢和男

コーンの害虫は稲、稗、麦類の害虫と共通のものが多く、ハリガネムシ類、ヨトウムシ類などをはじめ50余種が数えられる。

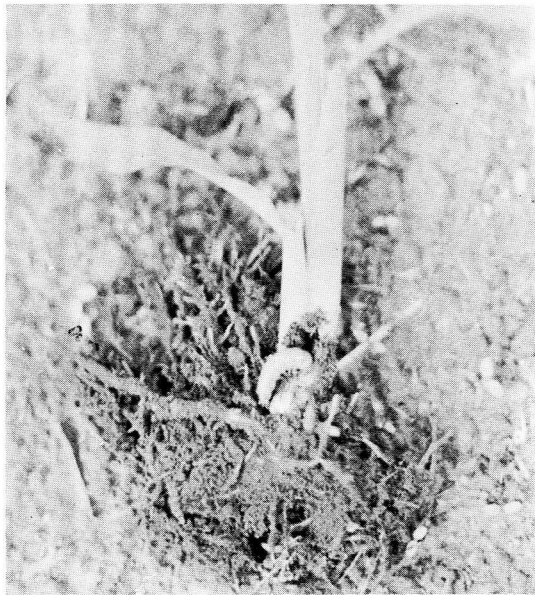
ここでは2・3種の害虫をあげ参考に供したい。

1. ショウブオオヨトウ

コーンが20~30cmに伸長した頃に心葉が急激に青枯れ状となり、次第に新葉全体が巻かれて針状となり、地際部から淡褐色の虫糞を出している。心葉を引張ると簡単に抜けてくる。そんな株が畑に点的に発生する。被害時期は6~7月で7月末~8月上旬前後には成虫が羽している。

コーンの茎に食入しているヨトウの幼虫は、老熟したもので約2~3cmで、淡黄白色をし、背面はやや淡い赤紫色を帯びている。

防除法 産卵期~幼虫ふ化期に低毒性の有機燐剤の散布を行なう。



シヨウブオオヨトウが食い入るところ

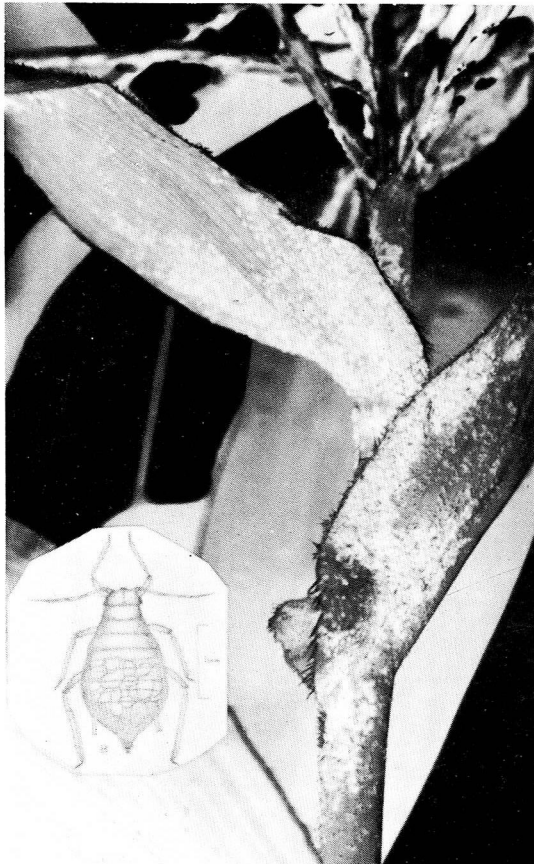
2. キビクビレアブラムシ

晩秋から早春までバラ科の植物で生活していたアブラムシは晩春から秋にコーン、麦などのイネ科植物に寄生する。コーンでは、とくに葉の裏面、葉鞘などに密集する。さらに、雌穂に好んで寄生するが、この場合は包皮の2枚または3枚目の外部からの加害が最も多い。

雌虫(親虫)には有翅と無翅(図参照)とがあり、いずれも胎生が殆んどで、有翅が時々卵を産む。

親虫の大きさは長さ2mm内外で、暗緑色~濃青緑色であり、1日に約5~7頭の仔虫を産む。仔虫は無翅の親虫と似た形で小さいだけである。仔虫は約20日間で親虫になる。これが4ヵ月余りで約7世代をくりかえすといわれており、アブラムシの増え方は、恐ろしく早く多いものである。

防除法 有機燐剤を発生初期から1週間~10日ごとに3~4回散布をくりかえす。また、雌穂に群棲しているときは加害部分を早目に切り取って焼きすて、別の穂に移らないようにする。



キビクビレアブラムシが葉の裏に群棲している。拡大図は無翅胎生雌虫。

3. アワノメイガ

越冬していた虫が7月中旬~8月中旬に成虫となって出て来て産卵をする(1雌の平均産卵数600粒)。卵から3~8日で幼虫となり、コーンの雄穂の加害、さらに茎、葉鞘の間隙、葉腋に接する部分に3mm内外の孔をあけ入りこみ、孔から上方あるいは下方に向かって茎の内部を食べながら、隧道を作ってゆく。食い入った孔から、多量の糞や食い屑を出して孔口附近に塊状となっている。幼虫が茎の内部に食い入ると数日で被害部から上方が萎凋して青枯れ状となり、次第に乾いてかたくなり、風などで折損する。また、雌穂にも食い入り子実を食害することも多い。

7月中旬~9月下旬には老熟した幼虫がみられるが、このまま越冬する。これの大きさは約20mm位で淡黄色であり、成虫(蛾)は雄がやや紅褐色~暗褐色、雌は黄色がかった褐色の翅である。

防除法 産卵最盛期とその後7~10日との2回位、有機燐剤あるいは塩素剤を散布する。

また、雄穂の除去も効果があるといわれている。